

鳥取県総合情報誌

vol.126

とっとり Now

Summer 2020

巻頭
特集

Enjoy! Tottori アクティブライフ

空・風・水と遊ぶHoliday

特集

地域と共に編む映画文化

アート団体「ことり舎」の挑戦



とっとり
Now
Summer 2020

あーとの森 書 松本 李南 2

巻頭
特集Enjoy! Tottori アクティビティ
空・風・水と遊ぶHoliday

4

新

TOTTORI
おもしろ発見手帖 鳥取県栽培漁業センター 14ここにこの人
Human Life 水中考古学者 山船 晃太郎 15カメラアイ
Camera Eye 碧の競演 18花咲くYokai談
水木しげると身近な妖怪たち ぬりかべ 20

鳥取のう美味 〃我が家の味、の手打ちそば 21

きらり匠人
継承の技が語る世界 和菓子職人 田部 浩之 22

特集

地域と共に編む映画文化
アート団体「ことり舎」の挑戦

24

VIVA! トットリLIFE
輝くIUターン者たち 洋裁業 (倉吉市) 30

企業紹介 イッポラボ合同会社 32

文字の迷宮をゆく ~つれづれ書林女子~
Voice 『カラー版 昆虫こわい』 33

読者プレゼント・編集後記 34



巻頭特集：カヤック（鳥取市の多鯉ヶ池）



特集：浜村温泉湯けむり映画塾による撮影風景



池平 徹兵

IKEHIRA TEPPEI

1978年福岡県生まれ。島根大学卒。東京オペラシティアートギャラリーprojectN、岡本太郎現代芸術賞展、VOCA展などに出演。その日に最も描きたいものを画面に加え、画面全てが主役の世界を描く。表紙には鳥取砂丘、焼きまんじゅう「因幡の白うさぎ」、砂丘らっきょうなど、鳥取の自然・食・動植物をちりばめた。

●表紙イラスト●

響き合う気品と香り 書 松本 李南

水茎もふくいくと、立ち上がる文字の香り。柔らかく、しなやかに、優雅な中にも、凛とした気品の響きが、松本李南さんの書を彩る。背景にあるのは、中国の王羲之（※1）や日本の空海などの古典。歴史を探究しなければ、新しい創作もあり得ないのだ。

幼時から書や絵が好きだったが、その書作に色彩感があるのは天性のものか。高校に進学した時、柴山抱海（※2）さんの「現代書」に出会い、「それまでのお習字とは異なる、深淵な芸術性に圧倒された。書の概念が変わり、すっかりのめり込んでしまった」という。

掲載の詩文『桜花さき…』は、意欲的に取り組んでいる近作の一つ。構造の違う漢字と仮名を、正攻法でまとめて、典雅で豊潤な開花をみせた。横文字が氾濫する時代、本来の文字表現を大切にしたい願ひもあろうか。躍動する『輝』は、命がまさに発光している。

「書は人なりと言うけれど、人柄や心の持ちようが、本当に怖いほど表れてくる」と、しみじみ語る。柔和な笑顔が絶えないが、書にかけける情熱は強く、生涯をかけた息の長い思いが胸底に深くある。「まだ模索中の身ですが願わくば響きの高さに骨太さも加えたい」。

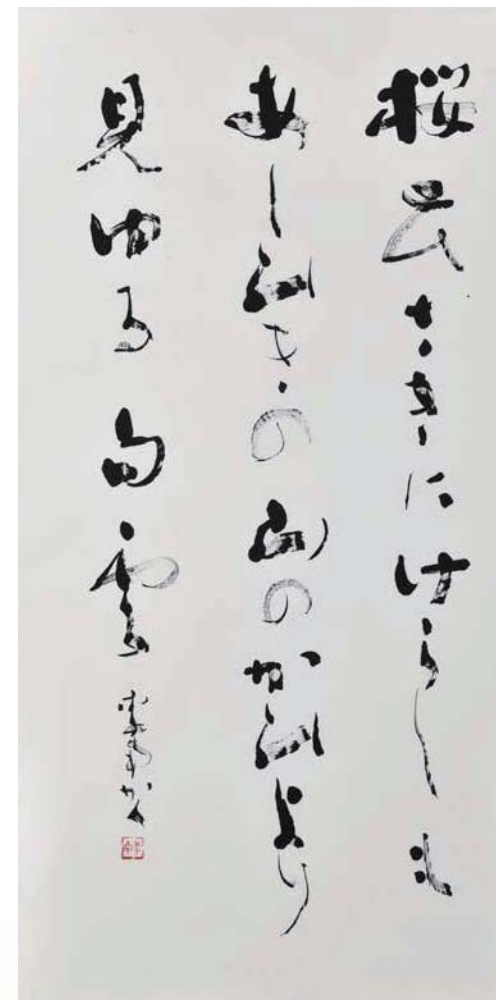
※1 王羲之=中国・東晋時代の書家。

※2 柴山抱海=鳥取県生まれ。現代書の巨匠・手島右郷を継ぐ書家。独立書人団参事。現代書とは、中国や日本の古典を参照しながら、現代の造形感覚で芸術性を追求する書。



まつもと・りなん

本名、美由喜。鳥取市在住。東洋大学文学部国文科卒。柴山抱海、松嶋楠城に師事。毎日書道展秀作賞、「放哉を書く展」準大賞など受賞。2013年、独立書展会員に推挙され、18年の独立選抜書展で会員賞を受賞。同年、鳥取市文化賞受賞。山陰書人社会員、独立書人団審査会員。



「桜花さきにけらしもあしひきの山のかひより見ゆる白雲」
〔古今和歌集〕紀貫之…濃墨、135×70cm、独立選抜書展会員賞

文／角秋勝治 写真／山内一峰

あーとの
ホホ
Forest of Art

『輝』（淡墨、105×135cm）

空・風・水と遊ぶ Holiday

Enjoy! Tottori アクティビティ

雄大な鳥取砂丘に、あお碧い日本海、
美しい溪谷に、静寂に包まれた神秘的な池……。
鳥取県には、空・風・水と戯れながら、
五感を震わせる体験が目白押し！
眺めるだけなんてもったいない。
心躍るアクティビティで、心身潤う休日。

文／倉恒弘美 写真／青木幸太

Paraglider
Shower climbing
Segway
Kayak



風で浮遊する爽快感！

〇 鳥取砂丘パラグライダースクール
 (砂丘本舗)
 〇 鳥取市浜坂1390-239
 〇 0857-24-6124
 〇 毎年3月～12月
 〇 <https://para.sakyu.info/>

タンDEM（2人乗り）でのフライトもおすすめ。
風が強くてもインストラクターのサポートで安心

当日は晴れており、風も強すぎず弱すぎず、飛行日和だろうと思いついていたが、沖合の様子を観察したベテランスタッフが一言。「もうすぐ風が強くなります。少し場所を変えましょう」。言葉通りに数分後には海岸線に白波が立ち、強風が吹き始めた。

自然が相手のため、安全確保には瞬時の判断が不可欠。風の強さや向きなど見極め、的確なフライト地点を探る。使うパラシュートの種類を変えたり、体験者のフォローをしたりと、予想以上に細やかな配慮が必要。なるほど、1人の体験にスタッフ4人もつくわけだ。

機材を装着し、風に負けそうになりながらも指示に従って、急勾配の砂丘を必死に小走り。そのとき、フワリ！あ、浮いた！数十秒ほどのフライトとはいえ、重力に逆らった独特の感覚は唯一無二だ。言葉にならないこの爽快感、自身でこ体感あれ。

いよいよ飛び準備。「うまく操作できるかなあ…」



風の抵抗を受けながらも必死に小走りしているとふいに体が軽くなる。「あ、浮いた！」

いざ、フライトポイントへ。道中は約1キロメートル程度だが、約7キロメートルの機材を背負ってアップダウンが激しい砂丘を移動するのは、なかなかの重労働。ただ、小学生でもやっている」と聞き、負けてはいられない。

細やかな配慮で安全に



楽しみの前に試練あり。7kgの機材がずっしり肩にのし掛かる

Enjoy! Tottori アクティビティ パラグライダー Paraglider

「わ、飛んでる！鳥ってこんな感じ！」。風紋に映る自分の影がみるみる小さくなる。「下ばかり見ているともったいないよ」。声をかけられてハッと視線を上げると、碧く澄んだ日本海！砂丘から続く海岸線の先には鳥取港が「はあ…すてき」。

感嘆がもれる。飛び立つ前の不安はどこへやら、テンションはとたんに急上昇だ。

なつて痛くないことがメリットだ。サポートをするのは「鳥取砂丘パラグライダースクール（砂丘本舗）」のスタッフ。まず事務所で受付後、操作方法や注意事項の説明を受ける。「基本は風に乗りながらハンド操作によるアクセルとブレーキで調整する乗り物。右ハンドルを引けば右に、同様に左を引けば左に旋回。両手を引けば減速、上げれば加速します」と代表の市川正さん。「空中で冷静に操作できるかなあ」と少々緊張しつつ、手順を頭にたたきこむ。

ダイナミックで スリル満点！

「3、2、1…GO!」。カウントダウンでジャンプ！一瞬の浮遊感の後、白い水泡に包まれ、体は水中でぐるりと一回転。え、何が起った？と頭は混乱しつつも水面から顔が出る。その間、たった数秒だ。

鳥取市河原町の三滝溪谷では、全長約500mのシャワークライミングが体験できる。沢登りをしながら、飛んだり滑ったりする「水遊び」。案内役は鳥取県自然体験塾の長谷川浩司さんだ。「県内に数コースあるなか、ここは起伏に富み、体験の種類が豊富です」と語る。外国人観光客にも人気が高いという。



ダイビングの次は、ウオーターライダーに挑戦。うつぶせで滑った後に仰向けで。後ろが見えず、恐る寝転ぶが、滑りだすと一瞬で水中にドボン！



鳥取県自然体験塾／USKAYAK
岩美郡岩美町牧谷690-20（岩美町立渚交流館内）
☎ 080-4555-7301
期 6月～10月
WEB <https://uskayak.jp/>

Enjoy! Tottori アクティビティ

シャワー クライミング Shower climbing



最後は浮力に身を任せて脱力。自然の声、に耳を澄ませる

ウエットスーツに着替え、準備体操をして出発。溪谷の澄んだ水はひんやり、夏の肌のほてりに心地良い。序盤からダイビング、ウオーターズライダー、クライミングとダイナミックなポイントの連続だ。まず、長谷川さんが手本を示す。「なんだ、割と簡単そう」。ところがいざ本番、岩の上に立ったとたん、足がすくんだ。怖い、予想以上の怖さだ。水面までたった2m程度なのに。

なかなか踏み出せずにいると、「さあ、自分の殻をやぶれ！」と長谷川さん。意を決して「えい、やっっ！」。飛べた！やればできる、私！水しびきが心身をリフレッシュさせてくれた。

緩急のある

コース設定

コースは中盤から、次第に緩やかな道のりに変化する。高低差は少ないが、岩肌は滑りやすい。「足先を川の流れと平行に」という教えを守りながら、そろりそろりと一歩ずつ踏みしめて進む。周囲の大自然を感じられる余裕もでき、前半とは違った楽しみがある。

最終ポイントの滝が見えてきた。滝行のごとく、勢いよく流れ落ちる水にバシバシと打たれる。「キヤーツ」。息もできないほどの水圧に興奮して、はしゃいでしまう。最後は、水深の深い滝つぼの水面に浮かび、空を見上げながら、水の音だけに耳を澄ませる。静かだ。頭を空っぽにして身を任せれば、一体感で溶けてしまいうそう。ああ、良い時間が持てた。

アクティブに水と戯れ、ひととき童心に返る「オトナの夏休み」。悪くない。



滝行のごとく激しい水流にうたれ、参加者みんなで大はしゃぎ



傾斜は緩やかながら、岩の上はとても滑りやすい。一歩ずつ慎重に歩を進める



走行に慣れるにつれ、スピードも気分もぐんぐん上昇



鳥取砂丘のなかで一番標高が高い場所に到着。
雄大な眺めにしばしうっとり

Enjoy! Tottori アクティビティ Segway セグウェイ

電動立ち乗り二輪車「セグウェイ」は、静かで排気ガスも出さないため環境に優しく、免許も不要。近年、アウトドアレジャーとしても人気が高まっている。2019年3月、鳥取砂丘でもオフロード用セグウェイを使った周遊体験ツアーがスタート。主催するのは体験型コンテンツをプロデュースする株式会社S i s s だ。砂丘地での体験は世界でも稀で、さらに日本の国立公園内で体験できるのは、鳥取砂丘のみという。



ハンドルをしっかり握り
ステップに足を乗せる。
「重心はこうかな…」

代表の高垣周平さんに操作方法などの説明を受けた。セグウェイは、体を前に傾けると進み、姿勢を戻すと止まるという重心移動で操縦する。実際に乗ってみると、運転は意外に難しくなく、少しの練習でコツがつかめた。足場の悪い砂地もスムーズ、坂道もぐいぐい登れ、目線が少し高くなるのも新鮮で気持ちいい。何より重心を少し変えるだけで速度や方向を変えられる。近未来感がたつぷりで、好奇心が止まらない。

近未来感に止まらぬ好奇心



新たに知った魅力が満載

「慣れてきたので周遊へ行きましょう」。高垣さんを先頭にいざ、繰り出す。鳥取砂丘の西側に位置する起伏のある松林を走り抜ける。風を切り、気分は上々。その先にはどんな世界が？冒険気分がワクワクだ。

やがて目の前に広がったのは、大パノラマの日本海と砂丘。「あまり知られていないけど、砂丘の中で一番標高が高い絶景ポイントです」と高垣さん。砂丘には何度も来ていたが、これまで見上げていたイメージの馬の背（※1）を見下ろすなんて！初めてだ。息をのむような壮大な眺めに、しばし目を奪われうっとり。

後半は、通常は立入禁止の海の近

くまで続くアドベンチャーコース（※2）を突き進み、日本海が一望できるレアなエリアへ。道中では謎解きアトラクションがあったり、所々で砂丘の成り立ちや特徴、動植物など豆知識のレクチャーもあったりと、楽しさが盛りだくさん。知っているつもり砂丘で、新たな発見が多々あった。

セグウェイのメリットは、若者から年配者まで幅広い世代が手軽に楽しめる事。広大で起伏に富んだ砂地の歩みにくさも、これに乗れば一気に解決！観光客はもちろん、地元の人こそぜひ。改めて鳥取の「偉大な宝」を自慢したくなるだろう。

☎ 鳥取砂丘セグウェイ周遊体験
☎ 鳥取市浜坂1390-227
☎ 090-9415-3981
☎ 3～12月（悪天候時ほか臨時休業あり）
🌐 <https://www.sakyusegway.com/>

※1 馬の背＝高さ約47mの砂の丘。鳥取砂丘のなかでも人気が高い観光スポット。
※2 鳥取砂丘は自然公園法により、許可車両以外の車馬（バイク、車、自転車、セグウェイなど）の乗り入れが規制されている。砂丘セグウェイは法を順守し、その他必要な許可を得て実施。

砂丘西側の絶景スポットを巡っていく



〇 鳥取県自然体験塾 / USKAYAK
 所 岩美郡岩美町牧谷690-20
 (岩美町立渚交流館内)
 ☎ 080-4555-7301
 期 通年
 〻 <https://uskayak.jp/>

ゆったり流れる癒やしの時

ふと周囲を見渡すと、池の隣には旧国道が走っている。すぐ近くの鳥取砂丘は観光客で賑わっているはずだが、ここは別世界の静けさ。パドルが水をかく音、肌をかすめる風の音だけが響き、神秘的な雰囲気さえ漂う。

長谷川さんに先導されて、池に浮かぶ小島を巡ったり、水面に生い茂るスイレンの葉をかき分けたり。すると普段、気に留めていなかった緑の匂いや小さな生き物の存在など、さまざまな自然の表情に気付く。

木の根っこがむき出しになっている場所は、水量が多い季節にはマングローブ林のように「変身」するという。入り組んだ木々の間をカヤックで探検する、ジャングルクルーズも楽しい。この想像以上の変化が飽きさせない理由で、リピーターが多いはずだ。

日常に少し疲れたら、時がゆっくりゆっくり流れるこの場所へ。カヤックをパートナーにしばしばやり、深呼吸。…いいな、これ。きっと心が生き返るはず。

※3 お種伝説＝蛇の化身だった美しい女性・お種が素性を知られたことで悲しみ、多鯰ヶ池に身を投げ、主となったという話。



カヤックに乗り込み、いざ池へ



自然の表情、くるくる変化

鳥取砂丘の南に位置する多鯰ヶ池は、「多鯰ヶ池弁天堂」の鬱蒼とした社叢に守られた自然豊かな場所だ。周囲3.4キロメートルの小さな池ながら、最深部は約15メートルと山陰でも随一の深さ。鳥取市民には「お種伝説」(※3)で馴染み深い、四季を通じてカヤック体験ができることを知る人は数少ないという。

ガイドの長谷川浩司さんは「春は新緑、夏はスイレンの花、秋はミミズクラゲ探し、冬は渡り鳥。季節によって表情が変わる」と池の多様な魅力を語る。加えて、海や川に比べ流れがゆるやかなことで、初心者や子ども連れのファミリーにもおすす



めだという。確かに池はすっぽり山に囲まれており、水面がおだやかで安心感あり。ライフジャケットに身を包み、パドル操作の指導を受けてカヤックに乗り込む。さあ、水上へ！

パドルの扱いがだんだん上手くなり、リズムよく前進。心地よい風が頬をなでる

「右、左、右、左」と交互に8の字を描くようにパドルを動かし、水を捉える。水中に入れる角度が浅すぎても、深すぎてもだめ。なかなかリズムが一定せず、最初はうまく進めなかったが、徐々に慣れてグングン前進できるように。

4艇をつなげて漕ぐ遊びもなかなか楽しい



ここにこの

Human
Life

山
船

Yamafune
Kotaro

晃
太郎

水中考古学者



※1 フォトグラメトリー＝複数の画像データを処理して物体や地形の情報を取得し、3D（3次元）映像に再現する専用ソフト。
※2 水中考古学＝沈没船など水中に沈むさまざまな遺跡を研究し、人類の歴史を紐解く学問。

文／井田 裕子 写真／萱野 雄一

海底には、いまだ人知れず300万隻もの船が沈む。
悠久の時を経たその壮大な謎に魅せられ紐解くのが、
水中考古学者の山船晃太郎さんだ。
3D映像を作成する写真測量技術「フォトグラメトリー」(※1)を、
水中考古学(※2)に応用した第一人者として、
世界の海で活躍する。

鳥取県栽培漁業センター

東伯郡湯梨浜町大字石脇 1166

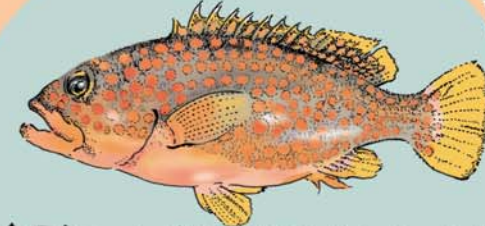
☎ 0858-34-3321

WEB <https://www.pref.tottori.lg.jp/saibaicenter/>

美味しい魚をいつでも味わうことができるのは、海の力だけじゃない！海の資源を守り増やすための調査研究や技術開発、キジハタやマサバの陸上養殖など「儲かる漁業」の仕掛けに取り組む鳥取県栽培漁業センターを探索する。

水産資源を未来につなげる！

鳥取では、「アコウ」(赤魚)、「アカミズ」(赤い体に水玉模様)とも呼ばれているよ！

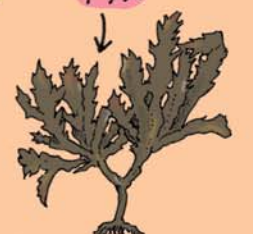


高級魚「キジハタ」交配に成功
全国初の人工交配で卵をふ化させる技術を開発。生まれたての稚魚は、水槽に空気を入れるための泡に当たただけでも死ぬほど弱く、扱いが難しい。放流後3年で30cm程度まで成長し、50cm近くなると市場価格が1万円を超えることも。

ぬるぬる成分が健康やお肌に効果があるアカモク



年中同じ形で4〜5年生きるアラメ



すむ環境も整備

海水温の上昇などで放流魚のエサ場や隠れ家となる海藻が年々、減少しているため、アラメなどの海藻による海の林づくりを行っている。またこれまで活用されていなかったアカモクなどの海藻についても有効利用をサポート。

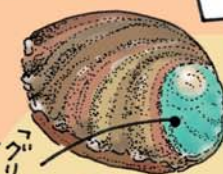
タイムリーな情報発信

温暖化などにより刻々と変化する漁場の健康状態を調査し、魚種や量の変化の予測など最新情報を伝えることも重要な任務。新聞やWEBで、定期的な通信を発行するなどして、随時情報発信に力を入れている。



ヒラメもいるよ〜

残った「カウ」が育てた目印



アワビ

サザエ

稚貝のアワビは、人工エサを食べさせることで、殻の色が美しいブルーグリーンに。放流後にさまざまな海藻を食べて殻が茶色に変わっても、一部分にはその色が残り、放流貝の目印に。放流は漁師が替って岩のすき間に1つずつ入れるという。サザエは、殻の色が白〜灰白色となる。

先端に残る白色

刺し身で1週間OK
「淀江がいな」



袋に入れ脱気し氷水のプールに浮かせて出荷

日本で一番おいしいサワラになった！

淀江漁港では船上で活け締めし、さらに内臓を取り出す高鮮度出荷も行っている。血を徹底的に除去することで1週間も刺し身で食べられる。このひと手間をかけた処理により、市場価格は他産地の1.5倍に。

太田さんも太鼓判

文・イラスト／雲坂紘巳(くもさかひろみ) 納豆が大好きなイラストレーター。1982年生まれ、鳥取県育ち。づるづるした食べ物が好きなおから、屋号は「スタジオづるり」。WEB=<http://dururi.com>



Vol.1

センターでは漁獲量が減少したものや、高く売れる魚介類を対象に「栽培漁業」を実施。卵から稚魚になるまでの弱い時期を人の手で守り育て、外敵から身を守るまでに成長させた後、最適な自然環境へ放流。その後、漁師が漁獲する。「つくり育てる漁業です」と増殖推進室主任研究員の太田武行さんが説明してくれた。

※がいな方言で「大きい」

沈没船の謎に魅せられ紐解く

後進の育成にも励む

世界各地で発掘作業を行い、これまでに、コスタリカで18世紀初頭のデンマーク船、アメリカ北東部のシャンプレーン湖で19世紀の蒸気船などの約75の調査や発掘に携わった。例えば、地中海のバレアレス諸島で行われたプロジェクトでは、16世紀初頭のスペインの沈没船を発掘。大航海時代(※3)の冒険者たちが乗っていた船の造船技術を解明する研究を行っている。

また、世界的権威といわれる考古学者が生涯で発掘する船が10、15隻という学界で、山船さんは、その数字をなんと、1年でこなしできた。

とにかく経験を多く積んだことで、海底に一部しか現れていない沈没船の状態から、船体の長さや保存状態などを即座に把握できるようになったといい、その確かな見識で世界の調査チームから厚い信頼を得ている。

「考古学者は、歴史の謎を紐解くというパズルゲームに魅せられた人種。大変だが、好きなことを

野球を断念後に出合い

幼い頃、夏休みのたびに父親の故郷である米子市を訪れ、山河で元気に過ごしていた少年は、考古学者の冒険ストーリー映画『インディ・ジョーンズ』が大好きだった。

小学3年生から野球に目覚め、大学4年まではひと筋に続け、プロを目指す。しかし、故障などが



写真提供: 山船晃太郎

3D映像活用し、世界の海で活躍

重なり、結果的に断念。次に進むべき道を探るなか、卒業論文のテーマを探している時期に出合ったのが、水中考古学の存在だった。「航路の途中で大海原に飲み込まれた船たちは、どこへ向かい、何を運ぼうとしていたのか。想像が膨らみゾクゾクした」。

しかし、当時の日本では研究がほとんど進んでおらず、文献もごくわずか。卒論は諦めざるを得なかった。その後の情報収集で、世界を代表するプログラムがあるアメリカの大学院に進むと決めた。英語は全く話せなかったが、学びたい一心で寝る間も惜しんで勉強。2年間の語学留学を経て、見事、テキサスA&M大学大学院への入学を果たし、海事考古学研究所で沈没船など水中遺跡の調査研究を始めた。

画期的な方法で注目

その頃、さまざまな遺跡が3D映像に再現され始めていたが、

実際の調査や研究には利用されていなかった。博士課程へ進学していた山船さんは「遺跡全体の正確な3D映像を作成すれば、研究がもっとスムーズに進むのでは」と思いつく。水中に潜れるのは約30分の深さで1回約30分。時間内での測量の精度に限界があるからだ。

水中で沈没船の写真を撮り、基本となる場所の測量と画像データから3D映像を作成。その3D映像から船舶の積載量や搬送能力の割り出し方を示したガイドラインを作り、それまでよりはるかに短時間で正確な測量データが得られるようになった。

国際的な学会で発表したところ注目を浴び、博士号取得前にもかかわらず、同研究や調査の依頼が舞い込むように。米子市で2016年、合同会社アパラティスを設立。会社を日本での拠点とし、3D映像作成のサービスなどを提供している。

仕事にできているのは、幸せなこと」。調査研究の他に、毎年2月には東京海洋大学で集中講義の講師を務めたり、「水中考古学フィールドスクール」(※4)を開催したりと後進の育成にも力を注ぐ。加えて鳥取県内や全国の小中学校でも講演を行う。子どもたちに水中考古学を分かりやすく伝えるだけでなく、海外で働く時に役立つこと、好きなことを仕事にするために重要なことなどを自身の体験から語っている。

「実は日本の陸上の(一般的な)考古学は『世界一』と言っても過言ではないほど、研究が進み環境も整っている。その知識や技術が水中で生かされたら、水中考古学もトップクラスになれる可能性が高い」と山船さん。「浜辺で陶器片を見つけたら『海の中にあったものかも』という発想をしてみたい」。

古代ローマンは意外と近くに転がっているのかもしれない。

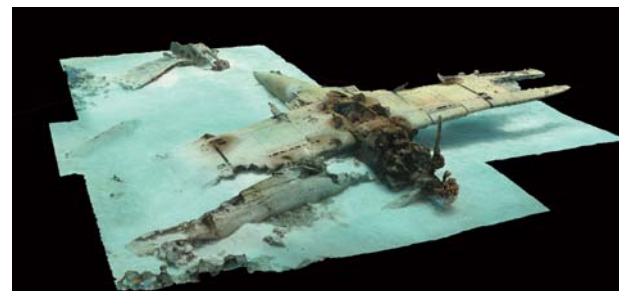
やまふね・こうたろう

1984年秋田県生まれ。愛知県で幼少期を過ごし、中学から千葉県へ。法政大学文学部史学科卒業後、語学留学を経てテキサスA&M大学大学院へ。2012年に修士号を、16年に海事考古学の博士号を取得。3D映像を考古学に応用した第一人者として世界で活躍。同年9月、米子市で合同会社アパラティスを設立。

※3大航海時代=15世紀~17世紀前半にかけて、ポルトガル・スペインなどのヨーロッパ諸国が、航海・探検により海外進出した時代。冒険者はディアス(喜望峰回航)、ガマ(インド航路開拓)、コロンブス(アメリカ到達)、マゼラン(世界周航)など。
※4水中考古学フィールドスクール=合同会社アパラティスが主催し、海外の沈没船遺跡で2週間かけ、水中での実測作業と考古学の基礎を学ぶ。



海外で行ったフィールドスクール。参加者は座学・実習で2週間近くみっちり学ぶ
=写真提供: 山船晃太郎



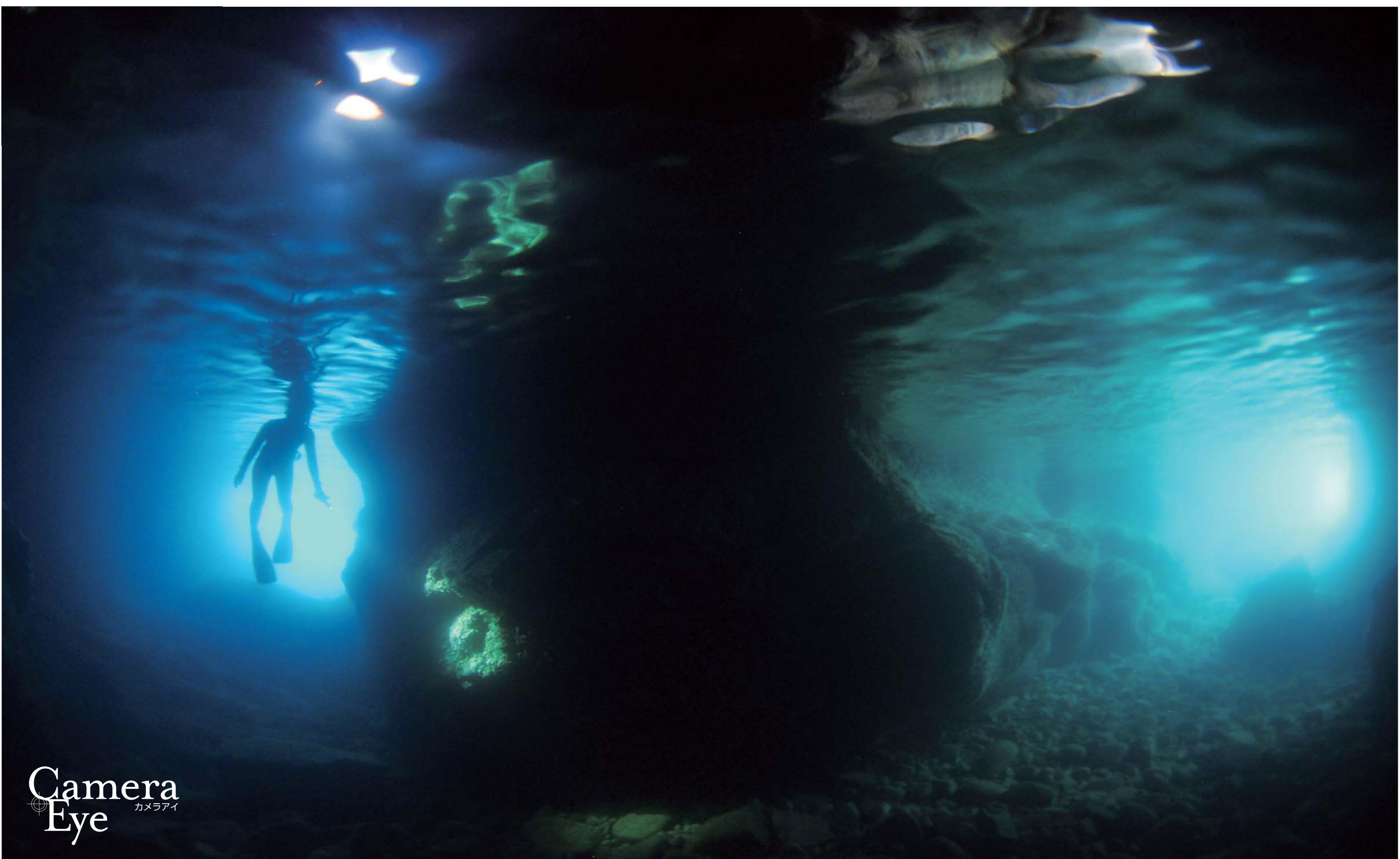
写真と測量を基本に作られた3D映像。
マウスを動かすことで上下左右、全てが確認できる
=写真提供: 山船晃太郎



海底に眠る沈没船の積荷(写真左)と世界のさまざまな海に潜る山船さん=写真提供: 山船晃太郎



合同会社アパラティス 米子市岡成186
https://suichukougakaku.com/



Camera
Eye カメラアイ

あお
碧の競演 いわみちょう
(岩美町)

撮影／中谷 英明 [かにクン] (鳥取市)

美しい景観と透明度を誇る浦富海岸。海の中ではさらなる魅力を堪能できる。例えば、光の加減で違う表情を醸し出す洞窟。順光では青に、逆光では緑に輝く。緑はプランクトン豊かな海の証だ。

鳥取の
うま味

「足さない、引かない」続け90年

「親子そば」(650円税込)。鶏肉の旨みと卵のコクが、つゆに染み出しおいしさ倍増。「ざるそば」(600円税込)。薬味、海苔・ネギ・ワサビを麺の上に最初からのせるのも、初代からのスタイル。全メニューが大盛にできる。

■手打ち蕎麦 みやべ

所 境港市巾町21
☎ 0859-42-2426
営 11時30分～15時
休 不定休

文／岩村利恵 写真／佐野明美



■「我家の味」の手打ちそば■

賑やかな港町に、昭和初期から続くそば屋「みやべ」はある。創業から約90年、一筋にその味を守り続けてきた手打ちそばに魅了され、多くの人が訪れる。

「初代の味そのまんま。何も足さないし引かない、家庭の味なの」と3代目店主の宮邊陽子さんは笑う。全メニュー、創業当時から同じ。やや小盛なので、ざるとかけの2種類を注文するという、この店ならではの食べ方をする常連も多い。

初代の手作りという石臼を使い、北海道産のソバの実を挽く。挽きたてを手打ちし、雑味の少ない色白のそばに。細切りでつゆとど越しがよく、つゆともよく絡む。そばつゆはたまり醤油と鰯節いわしなどを使い、店主の夫・博さんのみが知る秘伝の配合で仕込む。

女性に人気の「親子そば」は、うどん出汁風の温かいつゆに、鶏肉とネギの卵とじをのせる。具たくさんで食べ応えがあるのに、口当たりは優しい。定番の「ざるそば」のつゆは、見た目の濃色に反し、ほんのりと甘みがある。そのまろやかさにつられ箸が進む。

馴染みのうまさを求め、漫画家の水木しげるさんや女優の司葉子さんなどもひいきにしてきた老舗。気負わない「我家の味」で愛され続けている。

女性優位の社会こそ「楽園」

水木さんは、ある取材で述べている(※1)。「女性が元気なのは幸せな時代」「過去の誤りは、女性の意見が通らなかったから」

戦争中にラバウル(※2)で現地人の母系制社会を観察して、そう思ったのである。「戦争は男がする。女は男をあてにせず、老母を中心にして農耕・育児に努める。こういう母親中心の社会はおだやかで、自然の理になっています」

子ども時代、水木さんは「戦争ごっこ」が好きなガキ大将だった。ところが本当の戦争は「ごっこ」とは、まるで別物。上官が兵士を意味なく殴ったり、曖昧な根拠で将兵を死地に追いやったり。戦争イコール理不尽な暴力なのは、男社会がそもそも闘争心を原動力とするせいだ。

一方、水木さんが「大地の母」と呼ぶ老婆の発言力が強い現地トライ族の集落は寛容だった。

野戦病院で水木さんが、マラリアの高熱で苦しんでいた時、少年らが入れ代わり立ち代わり、食料を運んでくれたのは、老婆の指図だ。そのうえ水木さん用のイモ畑まで用意し、帰国を引き留めた。命を最優先し、優しさで包む。母系制社会ならではの。

水木さんのいわゆる「楽園」願望の根底に、女性優位社会への根強い信頼感があったのである。

※1月刊『望星』(1977年9月・東海教育研究所発行)に掲載

※2ラバウル＝パプアニューギニア独立国の東ニューブリテン州の一都市。



ファンにサインする水木さん(1993年、宝塚市)

花咲く Yokai談

文・写真／足立 倫行
イラスト／ミギワン

水木しげると身近な妖怪たち

妖怪
ファイル
Vo.9

夜道に現れ命拾い
三 ぬりかべ 二



「鬼太郎ファミリー」の中で、大きさも頼もしさも一番でっかいのが「ぬりかべ」。水木さんが戦争中、ニューブリテン島の密林で出会った妖怪としても有名である。

敵に追われて逃げ回っていた夜、急に行く手を拒む壁状のモノが現れた。色は黒。手で押すと、コールタールを固めたような感触だったが形はわからず、右にも左にも進めない。仕方なく諦めて一休みした。それがよかった。翌朝前に進んでみると、行く手は断崖絶壁。命拾いをしたのだ。

帰国後、水木さんはその不思議な体験が、柳田國男の『妖怪談義』に記された「塗り壁」と知り、「そうか!」と納得した。同書によれば、「塗り壁」は福岡県遠賀郡の海岸に出没した妖怪で、「夜道を歩いていると突然行く手に壁が現れ、どこにも行けない。棒で下の方を払えば壁は消えるが、上の方を叩いても役に立たない」とのこと。

参考：柳田國男『妖怪談義』(講談社学術文庫)

足立倫行(あだち・のりゆき)
ノンフィクション作家。境港市生まれ。同郷の先輩である水木しげるさんに約2年間密着取材し、『妖怪と歩くドキュメント 水木しげる』(1994年新潮文庫)※を刊行。主書に『日本海のイカ』『北里大学病院24時』『血脈の日本古代史』など。
※今井書店より復刻版発売中

ミギワン
漫画家・イラストレーター。石川県生まれ、鳥取県育ち。
WEB=<http://migiwan.com/profile>
facebook=<https://www.facebook.com/migiwanroom/>



餡にこだわり、季節の移ろいを表現

春は淡い緑のふきのとう、初夏には川を悠々と泳ぐ鮎^{あゆ}。茶席で振る舞われる「清月」の「上生菓子」は、季節の移ろいを表現した形の美しさで、まず客の目を楽しませる。一口ふくめばしっとり、餡^{あん}はさらりと溶け、広がっていく上品な甘さに心がとろけるのだ。多くの茶道家から長年にわたり、絶大な信頼を寄せられている。

和菓子職人 田部 浩之

2代目・田部浩之^{たなべ}さんは、85歳になる今も自ら餡を練り、豊かな表現力で四季折々の茶菓子を作り続ける。高校卒業後4年間、東京の和菓子店で修業した後、この地で60年以上、ひと筋に腕を磨いてきた。

「何千個と作ってきたが、満足できるのは、そのうち1個か2個」と静かに語る田部さん。伝統を守りながら、出雲大社「平成の大遷宮」や大山開山1300年祭、東京2020オリンピック・パラリンピック(延期)など、時流に合わせた茶菓子も都度、イメージを膨らませて創作する。

体験の観光客なども受け入れる。「自分で作れば“世界にひとつ。下手でもいい」と優しく指導。日本独自の文化に触れられると、特に外国人に好評だ。

「作るたびに、いまだ新しい発見がある」と、その瞳は生き生き。この手からしか生まれない餡の味と、精妙な造形がある。

文／井田 裕子 写真／田中 良子



「テーマに沿った菓子を依頼されることが多い。考えるのは大変だが、楽しくもある」と田部さん



〇 御菓子司 清月(本店)
 〇 米子市尾高町47-2
 ☎ 0859-22-5227

MEMO

白餡^{びんご}に求肥^{もとひ}を加えて練った「練り切り」を細工して作る上生菓子。定規や手彫物型、三角棒、はけなど、たくさんさんの道具を駆使して多彩な表情を生み出す。専用のはさみを使って花びらを一枚一枚刻む「はさみ菊」は、伝統的な和菓子。はさみの入れ方次第で表現の幅は無限だ。

専用のはさみを器用に使いこなし、あっという間に「はさみ菊」を仕上げる



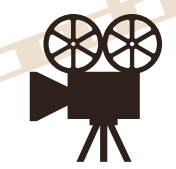
季節感あふれる色とりどりの上生菓子(写真上)。写真右は菓子木型。これを彫る職人が現在は全国に数人という



写真提供:鳥取藝住実行委員会(トット編集部)



地域と共に編む 映画文化



アート団体 「ことり舎」の挑戦

いつも見ている景色なのに、銀幕に映し出されると、
なぜかキラキラ輝いて見える。
地域が抱える問題が織り込まれていると、
自分が登場人物の一人になったような気分にも。
映画というこれまでにないアプローチで
地域を盛り上げる「ことり舎」は
ゆっくりだけど確実に、新しい文化を醸成している。

文／鳥飼 明子 写真／田中 良子





浜村温泉湯けむり映画塾
塾長 中島貞夫さん

ここで撮る 意味のある作品を

「荒尾くんが『やる』というから、手伝えることは手伝おうかと思ってね」。そう話す中島貞夫さんは、日本映画界で50年以上活躍する巨匠。にもかかわらず全く偉ぶることなく、毎年のように浜村地区を訪れ、塾長として映画塾を後押しする。荒尾さんが大学院時代に、中島さんの作品研究をしたことが縁だという。塾生を京都の自宅に招いて、シナリオの書き方を指南することもあるというから驚きだ。

映画塾の歩みを「まだ6年」としながらも、粘り強く続けていることを評価している。「似たような取り組みの失敗例をたくさん見てきたから。立ち上げは簡単でも、継続は難しい」という。特に映画は個人ではなく、多くのキャスト、スタッフが関わり合って制作するもの。続けていくには、集団を引っ張る力と地域住民の協力を得る力の両方が必要だ。

また、「偉そうなことを言っても作品がなければ何もならない。どういう形でも毎年作品をつくり、重ねる。そうすればいつか認めもらえる」とも。荒尾さんはこの言葉を肝に銘じ、この6年を乗り越えてきたのだろう。

昨年の連続ミニドラマは、地元ケーブルTV局の協力を得てより多くの人に「見せる。形にできたことを、中島さんは大いに喜んでいる。しかも思い入れのある地域の課題を取り上げ、ドラマの中で未来の方向性を見だし、人々に投げかけようとしている。これこそがフィクションの役割であり、醍醐味なのだ。

「特色のない、自己満足の映画では駄目。ここで撮ることに意味がある、そんな作品をつくってほしい」。百戦錬磨の巨匠の言に、映画の奥深さを思い知る。もっともっと映画を学びたいくなる。



一場面を旅館内で撮影中。([『拝啓、砂の国より』])
浜村地区から多くのエキストラが参加している

- ※1 中島貞夫＝映画監督・脚本家。1964年監督デビュー。現代劇、時代劇など、東映を中心に幅広い作品を手掛ける。『あゝ、同期の桜』『極道の妻たち』シリーズなどのほか、2019年『多十郎 殉愛記』（出演：高良健吾、多田未華子）が全国公開。
- ※2 宮島正弘＝撮影監督。映画監督・黒澤明、小津安二郎、五社英雄などと組んだ撮影監督・宮川一夫さんの撮影助手を長年、務める。現在は、日本の名作映画をアーカイブする作業にも関わる。

とはいえ、これまで映画とは無縁の地。ロケ地の協力、エキストラ出演、ケータリング等々、映画づくりには地域住民の理解と協力が不可欠なのだが、最初は誰もが「よそ者がやってきて、こんな田舎で突然何を始めたのか?」「映画ってどんなことをするの?」といぶかしがる反応がほとんどだった。

そこで荒尾さん夫妻は、地域内をくまなく回って一人一人と対面しながら、映画のつくり方を一から説明し、協力を求めていったという。また、撮影スケジュールが延びてロケ地の使用時間がずれた際にはきちんと謝罪し、エキストラで出演してもらったら、必ず全員が映るよう編集するなど、きめ細やかな配慮でコツコツと信頼関係を築いてきた。

7年目となる今では、周りから「今年の撮影はまだか?」などと、声をかけられるほどに。「普段からの交流がすごく大事。地域の皆さんとのつながりがないと映画は撮れない」と感謝を口にする。



浜村温泉街の中心部にある「ことり舎」と荒尾さん夫妻。以前からあった土産物店を引き継ぎ、店内には今では貴重なレトロ感満載の土産物も



「コミコミ」と関係づくり

海沿いの名湯として知られる鳥取市気高町の浜村温泉。昔ながらの情緒あふれるこの温泉街では、2014年から毎年「浜村温泉湯けむり映画塾」が開かれている。映画制作のワークショップを行いながら、地域と連携して地方発の映画を制作・発表するというもので、町の新しい魅力を発見し、地域活性化につなげようという取り組みだ。

塾長はなんと、日本映画界のレジェンドともいわれる映画監督・脚本家の中島貞夫さん(※1)。また、名カメラマンの宮島正弘(※2)さんをはじめ、映画制作のプロから指導

を受けられるとあって、県内外から希望者が集い、映画づくりに力を注いでいる。

塾を主宰するのは、映像制作やギャラリー運営などを行うアート団体「ことり舎」代表の荒尾極さん(※3)、妻の純子さん。大阪の大学で映像制作を学んだ2人は、極さんの父親の故郷という縁があり2011年、浜村地区に移住した。「紺碧の日本海、のどかな田園と温泉街、雄大な鷲峰山、どれをとっても絵になる光景。京阪神から車で3時間もあれば来られるし、ここは格好のロケ地になる」と感じたからだ。



「ようやく地域の人も親しくなれてきた」と荒尾さん

浜村温泉湯けむり映画塾 これまでの作品

写真提供:ことり舎



『幻の漁火』2015 年



『ここにある、心の唄』2016 年



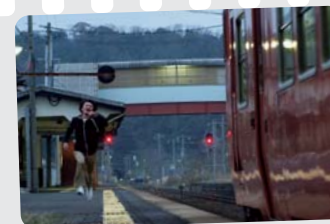
『失恋ゴースト』2017 年



『大タブの木の下で』2017 年



『裸婦』2017 年



『はだかのおじさん』2018 年



継続で希望の灯火に

映画塾の作品は、毎年早春に開催する日本一小さな映画祭「浜村温泉映画祭」で発表されている。昨年は、浜村温泉街の活性化をテーマにした連続ミニドラマ（1〜3話）が出来上がり、映画祭だけでなく地元ケーブルTV局と連携し、TV放映されたのは大きな成果だ。

物語はまだまだ続く予定で、荒尾さんは「ストーリーが進むにつれてキャストやスタッフ、地域も一緒に成長していこうというドラマ。3年、5年と長く続けていけたら」と目を輝かせる。

今後テーマや撮影方法など、工夫を加えながら活動を積み重ね、いつかこの地に「映画づくりといえば浜村」と言われるような映画文化を育てたいという。

「ロケ地として活用することで、空き家も生き返る。例えば京都の太秦のように、浜村のまち自体が映画のセットのようになったら楽しいんじゃないかな」。

かつては活気にあふれていた浜村温泉街。映画文化の花が咲き、希望の灯火となる日が待ち遠しい。



1本の映画をつくるには、構想から上映までに多大な工程と大勢の労力が必要。基本的な手順を簡単に紹介する。

① 企画

どういう作品にするのか(あらすじ)、その中で何を表現するのか、企画意図を考えて企画書を作成する。監督、シナリオライターなどメインの制作スタッフを決める。

② シナリオ(脚本)づくり

物語の起承転結、登場人物とその関係性など、脚本の骨組みを組み立てる。それを基に監督や制作スタッフの意見を取り入れながらシナリオを書く。

③ 絵コンテ

シナリオを基に映像を絵に描き起こす。出来上がった絵コンテを制作スタッフと共有することで撮影がスムーズに運ぶ。

④ ロケ地探し(ロケーション・ハンティング)

どのシーンをどのような場所で撮影するのかを考え、撮影場所の候補地を探す。また、その場所の所有者・管理者に撮影許可を取る。

⑤ キャスト・スタッフ集め、美術・衣裳制作

シナリオのイメージに合ったキャストを決め、出演者に交渉する。カメラ・照明・音響・美術・衣裳など、それぞれの制作スタッフを集める。シーンごとにどのような準備が必要かを監督と相談しながら決める。

⑥ 撮影スケジュールの作成

出演者や制作スタッフ、ロケ地などの状況を把握して撮影スケジュールを作成。天候などにより変更になることもあるので、その都度修正する。

⑦ 撮影

1時間の映画で、撮影期間は5日〜1週間程度かかる。時間や予算などの制約を常に考えながら撮影を進める。

⑧ 編集

撮影した映像をつなぎ、効果音や音楽を入れる。映画制作で最も神経を使う、大事なところ。

⑨ 宣伝

宣伝用のコマーシャルや広報物をつくり、各所に手配する。



作品は年に1度の「浜村温泉映画祭」で上映され、多くの人々が鑑賞に訪れる



『拝啓、砂の国より』のメインキャストたち



写真提供:鳥取県住実行委員会(ドット編集部)

ことり舎

〒鳥取市気高町勝見682-26

☎0857-51-0630

🌐 <https://www.facebook.com/cotorulisa/>



主人公「澤田あかり」を演じる松島彩さん

連続ミニドラマ 第1〜3話 『拝啓、砂の国より』あらすじ

地域に降りかかっている現実の課題をテーマに掲げ、オール気高町ロケで撮影した、とある家族の物語。

浜村温泉街にある気高町観光センターで働く主人公・澤田あかりは、地域を思う気持ちが人一倍熱い。しかし温泉街は、日帰り入浴施設や研修施設の相次ぐ閉館、高速道路の開通などで訪れる人が減り、以前のようににぎわいを失いつつある。あかりは、まちづくりを推進する市役所の職員や叔父に以前から「気高の未来をつくる会」の会長をやってくれないか、と打診されていた。しかし実家の父は「つくる会」とは、従来からのわだかまりがあり、娘への依頼を快く思っていない。あかり自身も、「自分にそんな重責が務まるのか」と心揺れ動く日々を送っていた。

そんな夏のある日、東京で教師として働いているはずの姉なるみが突然帰郷。その理由とは。そして、あかりの決断は……。



写真提供:ことり舎

「コッポツとお直しなどをしながら、オリジナル服も増やしたい」と前田さん

洋裁業(倉吉市)

前田 夏子さん

倉吉市出身

- ◎ 家族構成／実家暮らし
- ◎ 移住前の住まい／大阪府
- ◎ 移住時期／2014年
- ◎ 現在の仕事／洋裁業

atelier78

〒倉吉市新町1丁目2450-1

☎ 0858-27-0579

🌐 <https://www.facebook.com/atelier78.n/>

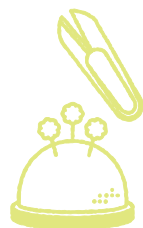
故郷で洋裁店を起ち上げ 想いを大切に服と向き合う

空き店舗を安く貸し出しする倉吉市の「チャレンジショップ」制度を紹介されたことで、「やりたい事を自分の店でやってみるか」と、心が動いた。2014年に新店。丁寧な仕事ぶりと良心的な価格で少しずつ顧客も増えていき、1年間の制度終了後には、現在の場所に移転オープンすることができた。

顧客の年齢層は幅広く、男性の依頼も珍しくないという。「固定客がほとんど。愛着のある服やモノを持ってこられるので、それにまつわるエピソードを聞くことも多い。だからこそ信頼感が大事で、喜んでもらえるのが本当に嬉しい」。

このほかオリジナル服もデザイン制作し、店内で販売も。「まだ数が少ないけど、いずれは展示会も開いてみたい」。

少女の頃の夢は、育ったまちで、もうすぐ叶えられそうだ。



幼い頃に憧れた服飾の世界に入り、洋服の補修やリメイク、さらにデザインも手がける前田夏子さん(40)。
2014年に大阪府からUターンし、この地に店を構えた。
顧客の想いに真摯に向き合い、洋服に再び命を吹き込んでいる。



町家づくりの店に並ぶ6台のミシン。その奥には「お直し」を待つ洋服たち。縫い方によってミシンを使い分け、着物が洋服に、ひと昔前のブラウスが流行りのデザインにと、魔法のように生まれ変わっていく。

店主の前田夏子さんが倉吉市の中心部、白壁土蔵群の一角に洋裁店「atelier78」を構えて今年で5年目。裾上げや穴あき補修、デザインを変えるリメイクなど、大小さまざまな相談が寄せられる。持ち込まれた服の中には「買い換えたほうが安く済むな」と、ひと目でわかるものもあるが、持ち主には思い入れがあるのだろう。その思いを受け継ぐように、誠意を持って、一着一着と向き合う。

子どもの頃から、洋服に興味があった。深夜にテレビ放映される海外のファッションショーに魅せられ、人形の洋服を自らデザインして

転機は就職して13年目。東京への異動の打診があった。その頃、仕事内容に疑問を感じ始めていたことも重なり、思い切って退職、Uターンすることに。「いつかは地元に戻ろう」との思いもあって。ただ、その時点では起業する気はなかったという。ところが、就職先探して訪れたハローワークで新たな展開へ。

丁寧な仕事で信頼を得る

仕立てていたという。成長しても洋服を愛する気持ちは変わらず、米子市内の服飾系専門学校を経て、大阪の縫製会社に就職した。



【IJUターンの相談窓口】

公益財団法人 ふるさと鳥取県定住機構

〒鳥取市扇町115-1

鳥取駅前第一生命ビル1階

☎ 0857-24-4740

🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/>

IJUターン就職に関する相談

☎ 0120-307-238

(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)

移住に関する相談

☎ 0120-841-558

(8時30分～17時15分※土日・祝日除く)

とっとり移住定住ポータルサイト

🌐 <https://furusato.tori-info.co.jp/iju/>

昔ながらの町家をリフォーム。
店内は洋服や観葉植物、手作り雑貨などがセンスよく配置され、洒落たカフェのよう



atelier78
original clothing
reform
remake
order



木材で作った知育玩具の売り上げの一部を使い、
開発途上国の子どもたちに学習道具を贈る
IPPOLABO合同会社。
「教育環境の格差」を目の当たりにしたことをきっかけに
「学ぶことの楽しさを伝えたい」と
寄付につなげる仕組みを作り、共感を広げている。

知育玩具の販売通じ、途上国に貢献



「地元の素材と組み合わせた玩具の種類も少しずつ増やしていきたい」と田中さん

IPPOLABO合同会社

代表 / 田中 大一
設立 / 2018年5月
〒鳥取市南安長
☎ 090-6835-0686
🌐 <https://ippolab.co.jp>

もともと英語教師を志望していたという田中大一さん。大学時代に訪れたカンボジアの教育環境の悪さに衝撃を受け、自分にできることをしたいと国際協力の道を志した。大学院卒業後、「日本国際協力システム」(※)に就職し、開発途上国で学校をつくる仕事に従事。転機はマラウイ共和国で自ら企画して開いた運動会だった。

景に衝撃を受けた。「これでは教育とは言えない」。少しでもサポートしたいとの思いを強くし、方法を模索するなか、商品の売り上げの一部を学習道具の購入に使う仕組みをビジネス化しようと決めた。

2018年、出身地の鳥取市で起業。「学び」を事業の軸に、自身でセレクトした木工玩具の受託販売からはじめ、次にオリジナル商品を開発。カラフルに色付けされた積み木「demi (ドゥミ)」は出産祝いに人気、智頭町産のヒノキで作った「タテグ」は組み合わせ自由で発想力を刺激する商品だ。子どものほか、お年寄りの手先の運動にもなることを期待させる。

19年にはインド・ブッダガヤの学



写真提供: 田中大一

校に通う子どもたちにノート、鉛筆、消しゴムなどを手渡した。5万円で100人の1年分の文具がまかなえるという。「新品を手渡した時の満面の笑みが忘れられません。ようやくサイクルが回り出したところ。今後も継続できるような活動を拡大していきたい」。

「僕は英語を学ぶことが楽しかった。学びで自分の世界が広がっていく感覚を味わってほしいんです」。一貫したその思いが、田中さんを突き動かす。

文・写真／藤田 和俊

※日本国際協力システムII略称: JICS。政府開発援助(ODA)やその他の開発途上国支援へ必要な物品やサービスを調達する専門機関。

日本を代表する昆虫学者による、世界各地で昆虫採集する日々を綴ったカラー写真(主に虫)満載の旅行記。アリの観察に繰り出した夜の密林で遭難しかけたり、南米での連日の虫捕りが楽しすぎて睡眠障害を発症したり、自らの下半身に取り付いたマダニの写真記録が学会で発表されてしまった…。さまざまなピンチを体験し、それでもなお虫たちの摩訶不思議な魅力にあらがえない著者の『昆虫

文の字の迷宮をゆく

つれづれ書林女子

昆虫少年の終わらない夏休み

『カラー版 昆虫こわい』丸山宗利著(幻冬舎)

「こわい」の叫びは、恐怖ではなく興奮と歓喜に満ちている。「かっこいい虫」「でっかい虫」「アフリカっぽい虫」「ピカピカした虫」。およそ偉い学者先生とは思えない、身も蓋もない形容詞を連発し、夢中で虫捕り網を振り回す姿は、まるで終わらない夏休みを謳歌する小学生男子のよう。しかし今や彼のフィールドは自宅の裏山などにとどまらず、地球の裏側のジャングルや広大なサバンナにまで及び、時には新種の発見者として歴史に名を残しちゃうのだ。

「好き」を追いかけて大人になるのは楽じゃないけど、それをいとわない人だけに許された特別な生き方。才能とは楽しむ力だと、満身創痍で笑う丸山先生が教えてくれる。

文・イラスト／前田 環奈



ヨツコブツノゼミ
Bocydium globulare

まえた・かなな
かんたんどろ
鳥取市出身。古本屋「邯鄲堂」店主。古本の販売のほか、陶磁器の修理(金継ぎ)も行う。

【邯鄲堂】〒鳥取市吉方町2丁目311
☎ 080-2940-2127



125号の感想から

「情熱に生きた新しい女たち」の記事を読むまで、おふたりの存在を全く知りませんでした。古代子と花世の作品を読んでみたいものです。

(岡山県岡山市 松岡 英子)

鳥取にゆかりがある女性たちの生き方そのものに感激しました。若くして逝ってしまった古代子さん、とても残念です。

(神奈川県川崎市 本生 清子)

婦人公論の読者グループに入っていた関係で、巻頭特集の記事にあった生田花世さんの源氏物語の講話を聞かせていただきました。当時のことを思い出しました。

(東京都中野区 東風谷 朝子)

縁あって「とっとりNOW」を購読し続けて20数年となります。今回の巻頭特集「新しい女たち」には驚き、そして感動しました。鳥取を離れてはや53年。生田春月のことは多少知っておりましたが、花世や古代子の活動や軌跡を全く知らず、開眼する思いで読ませていただきました。企画した編集部の方に感謝します。

(千葉県千葉市 岡田 賢一)

特集記事により、鳥取県内にもたくさん「こども食堂」があることを初めて知り、興味深く拝読させていただきました。また、企業紹介の「ルウ研究所」の記事では、本来廃棄物だった魚のウロコからカラーゲンを抽出し、スキンケア製品などを作るという画期的なアイデアに、まさに目からウロコの思いでした。

(鳥取県倉吉市 池本 里実)

「こども食堂」の記事、興味深く読ませていただきました。地元にもあると思いますので、場所を確認して協力したいと思っています。

(福岡県福岡市 白石 裕子)

世界で初めて魚のウロコからカラーゲンを抽出したという研究所が鳥取県にあることを初めて知り、驚きました。しかもモットーが「儲けより、人の役に立つものを目指す」という言葉に感動しました。今後の世界的発展を期待しています。

(広島県広島市 野坂 辰夫)

特急「スーパーはくと」に乗った際に置かれていた「とっとりNOW」を初めて手に取りました。県内で行われているさまざまな取り組みなどを読み、鳥取県を身近に感じる事ができました。

(兵庫県神戸市 松村 尚澄)

読者プレゼント

応募〆切
2020.
6/30
消印有効

■ 応募方法

下記の項目を記入し、ハガキまたは電子メールでご応募ください。

- ① 希望の商品記号または商品名
- ② 掲載記事への意見・感想
- ③ 応募用クイズの答え
- ④ 住所・氏名・年齢・電話番号

※②の感想が次号の「VOICE」に掲載される場合、住所・氏名が明記されることをご了承ください。また商品の当選は、発送をもって発表に代えさせていただきます。

■ 応募先

〒680-8570 鳥取市東町1丁目220
鳥取県広報連絡協議会(鳥取県庁内)
「とっとりNOW読者プレゼント」係
メールアドレス: now@kouhouren.jp

※お預かりした個人情報は、プレゼント発送以外の目的に使用することはありません。

● 応募用クイズ ●

Q

沈没船など水中に沈むさまざまな遺跡を研究し、人類の歴史を紐解く学問とは何? 空欄の4文字に漢字で記入してください。

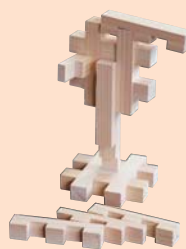
				学
--	--	--	--	---

125号のクイズの答えは

「コラーゲン」

※「企業紹介」の記事中に正解あり。

A



タテグ (1箱30ピース)

【1名】

智頭町産のヒノキで作った組み木玩具。建具職人とイッポラボ(32頁)の共同開発で、格子状の建具から発想した形。多種多様な組み合わせが楽しめる。

問 イッポラボ合同会社

☎ 090-6835-0686

B



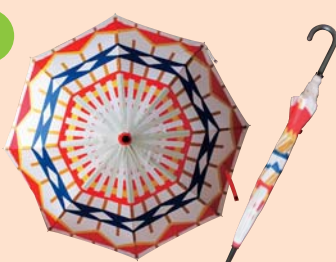
大山の香り 抹茶ろ〜る (400g) 【3名】

大山上で栽培した抹茶を、生地とクリームに贅沢に混ぜ込んだロールケーキ。上品なほろ苦さと芳醇な香りにこだわった、老舗茶店ならではの逸品だ。

問 ながた茶店

☎ 0859-34-2023

C



しゃんブレラ(雨傘) (全長89.5 cm) 【3名】

「鳥取しゃんしゃん祭」の傘踊りで使う和傘と同じ模様の雨傘。強風で変形しても復元する優れた機能と、華やかなカラーで雨の日も気分は晴れやか。

問 鳥取市ふるさと物産館(まちバル鳥取1F)

☎ 0857-36-3767

D



梨&らっきょうドレッシング3本セット (旨塩、白味噌、醤油仕立て) (1本205ml) 【3名】

すりおろした梨に漬け込んだラッキョウをベースに、オリーブオイルを加えた新ジャンルドレッシング。甘味と爽やかな酸味が、多彩な料理に使える。

問 有限会社田畑商店

☎ 0857-22-2328

E



わさびそうめんセット (乾麺200g×2 つゆ付き) 【3名】

倉吉市の清流で育った「関金わさび」を麺に練り込んだそうめん。爽やかな香りで、つるつる滑らかな喉越し。辛みは控えめなので子どもにも食べやすい。

問 道の駅犬伏

☎ 0858-45-1313

F



鳥取砂丘 砂の美術館ペアチケット 【3名】

世界トップクラスの砂像彫刻家の作品を展示する美術館。今期のテーマはチェコ&スロバキア。美しい中世の街並みや世界遺産の数々を砂だけで表現。

問 鳥取砂丘砂の美術館

※チケット利用期限は
2021年1月3日まで

☎ 0857-20-2231

G



魔法のベジジャム ビーツとりんご (130g) 【3名】

大山山麓で無農薬栽培した有機ビーツとリンゴを、てんさい糖とレモン果汁で煮詰めたジャム。鉄分や葉酸などの栄養素が豊富。パンやヨーグルトに合う。

問 大山スマイルファーム

☎ 050-3395-2455

H



池平徹兵イラストマグネット 3枚セット (5cm×5cm) 【3名】

今号から表紙を担当する池平徹兵さんのイラストマグネット。優しい色合いで描かれた油彩画で、並べると1つのストーリーになる仕掛け。

問 鳥取県広報連絡協議会

☎ 0857-26-7086

Editor's note

□ ■ 編集後記 □

沈没船と聞くと、「財宝発見!」とイメージする人が少なくはないはず。これは利益目的の「トレジャーハンター」が、世界の海で幅を利かせているため。対する「水中考古学者」の仕事は、調査研究&保存が目的。残された遺跡から当時の生活

や文化、技術などを紐解き、後世に伝える。両者は似て非なるものだが、混同されがちだと山船さん(15頁)。▼その昔、人々は互いの存在を知るべく彼方の大陸を目指し、海を渡る。後にさまざまな物流で航海するも、船の構造がまだ強固ではなく、都度、嵐などのトラブルで何万隻もが沈んだ。▼海底では時間が止まったかのように家具、

靴、洋服など、あまたの積荷が当時のまま残っているものも。持ち主に代わり「どうか伝えて」と言わねばならぬ。この無念の死をとげた魂の代弁を担うのが考古学者だ。モノたちも何百年とひたすら待っていたかがある。ああ、浪漫にあふれている。だから冒頭の前者と後者では雲泥の差があるのだ。「お宝」の本当の意味は深く、尊い。【Hi】

鳥取県総合情報誌 vol.126

とっとり
Now
Summer 2020

《企画・編集・発行》鳥取県広報連絡協議会
〒680-8570 鳥取市東町1丁目220(鳥取県庁内)

《制作》株式会社セイセイ堂デザイン
〒680-0841 鳥取市吉方温泉3-802 TEL.0857-22-1122

☎ 0857-26-7086

☎ 0857-29-6621

とっとりNOW

検索

https://www.kouhouren.jp/
2020年6月1日発行 定価315円